

足立区議会  
自由民主党

討論者



長澤 こうすけ 委員

新型コロナウイルスの感染拡大により区内経済は深刻な打撃を受けており、今後、足立区、日本のみならず世界経済に与える影響は不透明である。区民、国民に多くの不安が広がっている中、今後の金融資本市場の変動について注視していく必要がある。このような状況の中、令和2年度予算は「2020その先の足立へ、合言葉は、安心・安全。」と名付け、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた機運醸成とレガシーづくりとともに、昨年の台風19号の教訓を踏まえた災害対策に力点を置きながら、人生100年時代を意識した予算となっており、一定の評価をする。

した歳入の確保、膨らみ続ける予算の抑止、危機管理体制構築、さらなる水害対策、東京2020大会レガシー創出、子どもの貧困対策事業、教育のさらなる強化、人口推計を活用した施策展開、区民が、国・自分のまちを愛する心を育む施策、区内中小企業支援、商店街振興、竹ノ塚駅付近連続立体交差事業の推進、五反野駅前の無電柱化、綾瀬駅前整備、不燃化促進、違法看板防止、路上喫煙やエスカレーター乗車マナーアップ、再犯防止事業、小中学校における給食費の負担軽減など、様々な提案及び要望事項について、本予算の執行と今後の区政運営に確実に反映し、国難の新型コロナウイルス対策では、感染拡大防止、区内中小企業へのさらなる支援、また安全な環境のもと、区内屋外スポーツ施設等を開放し、区民の運動機会促進を行うよう強く要望する。最後に共産党提出の修正案については、安定した長期的な区政運営を捉えたものではなく到底賛成できるものではない。

足立区議会  
公明党

討論者



吉田 こうじ 委員

令和2年度当初予算案は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運醸成と大会後のレガシー及び昨年の台風19号の教訓を踏まえた風水害対策の充実の2つを大きな柱に予算案のタイトルを「2020その先の足立へ、合言葉は、安心・安全。」とした。

治安、防災に関わる安心ばかりではなく、全世代の区民の安心感を生み出すための施策、事業が中心となっている。規模は、一般会計総額で2千980億円となり、6年連続で過去最大の更新となった。予算編成では、まず東京2020大会の機運醸成とレガシー創出を通して、具体的な施策で共生社会を目指している。水害対策では水防体制再構築に向けた見直しや、避難所となる学校体育館のエア

コン早期設置等、確実に進めることを望む。貧困対策では、外国にルーツを持つ子どもや若年者支援等、着実な執行を要望する。エリアデザイン計画の推進、高齢者インフルエンザ予防接種の任意接種等の健康施策や、区地域包括ケアシステムも、高齢者を地域で支える新たな土台構築に取り組む。なお、共産党提出の修正案については、今後の中長期的な区政運営を考慮した案とは言えず、到底賛成できるものではない。最後に、本委員会で我が党の委員から指摘し要望した、給食費値上げに伴う保護者負担の軽減、多子世帯への軽減策、各種まちづくり施策、防災減災対策、高齢者支援の充実等の提案や要望については重く受け止め、新年度予算の執行や、これからの区政運営に反映されることを強く求める。また、新型コロナウイルス対応では、今後も情勢の変化に応じて、必要な対応策を躊躇なく迅速に実行し、区をあげて全力で取り組まれる事を強く要望する。

特別の  
委員会  
の  
討論  
要旨



令和2年予算特別委員会の映像は区議会ホームページでご覧いただけます。スマートフォンやタブレットからでも視聴できますので右の2次元バーコードからアクセスしてください。10月に開会予定の決算特別委員会の期間中、YouTubeでインターネット生中継を行いますのでぜひご覧ください。



※予算特別委員会委員の名簿及び委員会の審査結果は8面に掲載しています。

日本共産党  
足立区議会

討論者



横田 ゆう 委員

令和2年度予算案では、積立金はさらに更新し、全国トップクラスの1千740億円となった。幼稚園・保育園の副食費の無償化、学校体育館のエアコン設置、高齢者の補聴器購入費用の助成等に足を踏み出したことには賛同する。しかし、区民の生活が苦境に追い込まれている時に、予算の柱の第1にオリンピックをおき、区民の暮らしによって立つべく、自治体本来の役割を後継に追いつける姿勢であり、賛成できない。

具体的には、学校統廃合、学力テストにお金を使い、デジタルサイネージは2億8千万円、児童館は設置に8千万円、利用は無料なのに、児童館保育室のメール配信サービスは1か所設置に54万円、しかも月440円の利用負担を強いている。これらの無駄使いを見直すだけで1億5千万円の財源が生み出され、基金を新たに取り崩すこともなく、区民の暮らしを応援する施策が実現できたものだ。予算修正案で提案した介護利用料の軽減策、熱中症予防のためのエアコンやバス購入費助成、準要保護世帯の入学準備金の引き上げ、第3子以降の学校給食費の無料化

等、区民の暮らしと命最優先の立場で実現されることを強く求める。国民健康保険特別会計は、20年以上連続値上げをし、20年前と比較し均等割は2倍になり、保険料のさらなる値上げを前提としており、到底認めることができない。介護保険特別会計は、保険料の負担軽減も盛り込まれており、当初は賛成しようと考えていたが、住民を支え守るという姿勢が見えないため、反対することにした。後期高齢者医療特別会計は、1人当たり平均3千926円の値上げは、年金削減や負担増に苦しむ高齢者に追い打ちをかけるものであり、認められない。

足立区議会  
立憲民主党

討論者



鈴木 あきら 委員

令和2年度予算は「2020その先の足立へ、合言葉は、安心・安全。」と名付け、「災害対策の抜本的見直し」と「人生100年時代を支える施策の充実」を大きくアピールしたものである。特に災害対策では、昨年の台風19号の教訓を生かした水防体制の再構築や首都直下型地震に備える避難所の立ち上げ・運営や情報発信方法の見直し、災害に強い公共施設のあるあり方の検討を行う等、被害を最小限

に留めて区民の生命や財産を守るという区民の強い姿勢と本気度が伝わるものといえる。また、青色パトロールカーによる防犯パトロールの実施や防犯カメラ増設等による「防犯力の強化」「健康施策の推進」等に力点を置いた予算編成を評価する。ただ、「防災・防犯・防疫」の3つの「防犯」が、「防疫」については「防災」「防犯」と比較すると「安心・安全」という意識が薄い感があり、重要性が伝わっていない。区としての新型コロナウイルス対応に対しては、敬意と感謝をしているところであるが、今後は「防疫」に対しても「防災」「防犯」と同様に取り組みが区民にしっかりと

りと伝わるよう求める。そして、何よりも国や都との連携強化、感染拡大の防止、早期終息、不安解消のために全庁をあげて立ち向かうこと、景気悪化による区民生活への対策も強い覚悟で行うことを求める。他に指摘した収納率のさらなる向上、街角・通学路の防犯カメラの早期整備、水害対策での水のうの効果のPR、不登校支援の充実、地域人材確保・育成支援事業の充実、清掃事業の危機管理、防災拠点としての都立中川公園の活用、区花チューリップを通してのオランダ連携事業、東京女子医大新東医療センター玄関前へのコミニバスバス整備等の取り組みを強く要望する。

足立区議会  
議会改革を主力  
で推し進める会

討論者



長谷川 たかこ 委員

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、区内経済にどれほどの影響を与えるのか懸念するところであり、区としては想定する各事業の予算については確実に遂行するよう努めなくてはならない。また、急増する社会保障ニーズへの対応と、人材を確保するための社会保障予算の確保と地方財政措置を的確に行うことが必要である。委託事業は事後検証を徹底することが重要であり、早急な改善と費用対効果の叶う

適切な事業となるよう強く要望する。一方、新年度の施策として評価すべき点として、産後ケアのデイサービス型や乳幼児期の感染症対策、幼児教育・保育の無償化に関連した補助拡充などがあげられる。高額なロタウイルスワクチンの定期接種が予算案に組み込まれたことは大変評価でき、産後ケアについては、さらなる予算増額を求め、支援施策のさらなる拡充となるよう要望する。

令和2年度からは東京ママパパ応援事業として、今までのネウボラ事業を拡充させた東京都の補助事業が展開されるが、区もこの事業を活用するよう強く要望する。また、来年度から始まる東京都の養育費確保支援事業を活用し、全国で一番子育てしやすいと言える足立区を着実に構築するよう、切に要望する。多様化する区民ニーズをしっかりと捉え、子どもを産み育てることの尊さの理解と、その想像力と知恵と工夫をもって積極的に国や東京都の補助事業の活用と実効性ある施策を戦略的に展開することを強く要望する。また、制度の谷間に落ちている人たちが手が差し伸べられる支援施策の構築に尽力し、国をリードする支援制度の構築に向けた取り組みを強力に進めるよう、切に要望する。